



You are the protagonist of your own life.
What will you do?
Enjoy university life!

会長挨拶

横浜市立大学後援会 会長 原口 淳

日頃より後援会活動へのご理解とご支援を賜り感謝申し上げます。

昨年のニュースレターで“日本では総理大臣が替わり、”と書きました。あれからわずか一年で女性初の“高市内閣”が誕生しました。公明党が自民党の連立から離脱し、代わりに維新が連立に参加しましたが少数与党の構造は変わりません。与党のみで物事を決められない今こそ政局論争ではなく日本の将来に資する政策議論を進めてほしいものです。

日本の将来を左右する最大のポイントは人口減少ではないでしょうか。大学にも人口減少の大きな波が押し寄せます。単純に18歳人口のみに着目すれば、現在約800校ある日本の大学の3割は早晩過剰となります。数の問題のみではなく質もまた課題です。文部科学省は日本の大学の国際競争力を高める目的で10兆円ファンドを立ち上げ、国際卓越研究大学の育成に取り組んでいます。この10兆円ファンドと並行して地域中核大学の強化を目的としたJ-PEAKSと呼ばれる支援事業も国が進めており、本学は南関東の中核大学として採択されました。採択大学には一定期間助成金が交付されます。本学はこの助成金を活用し、研究力、教育力の強化を進めていく方針を打ち出しています。素晴らしいことだと思います。

私は大学のキャンパスは社会の縮図だと思っています。近年、コンビニ、飲食業、建設現場等いろいろな場面で外国人就労者の方々を多く見かけます。今後人口減少が労働力減少に直結していく日本では、あらゆる職種で外国人就労者が増えていくと思われます。その社会要請に大学はどう応えるのか。海外からの留学生が日本語を学び、日本語で高等教育を受け日本企業に就職していく流れを作っていく必要があるのではないのでしょうか。社会の縮図であるキャンパスに一定数の外国人留学生が在籍し、日本人学生と日常的に交流している姿を早期に実現することが望まれます。円安の時代に高額な費用を掛け海外に留学せずとも金沢八景キャンパスで国際交流が深まる、そんな大学にしたいですね。また週末や夏休みには皆さまのご家庭に外国人留学生をホームステイさせることで家族ぐるみで国際交流するのも貴重な経験になるのではないのでしょうか。



「会長コラム 春夏秋冬」
年4回更新中



学長挨拶

学長 石川 義弘



横浜市立大学後援会の皆さまには、日頃より本学への温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまのお力添えにより、学生は、学修活動や課外活動、海外留学や学会参加など挑戦と成長の機会を得ることができています。改めて深く感謝申し上げます。

本学は2025年1月、全国の有力大学が申請する中で、25大学の一つとして国の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。この事業は、東北大学が採択された「国際卓越研究大学」とともに、日本全体の研究力を牽引する大学群を形成する取り組みです。私は、政府関係者との対話を通じて、少子化や国際競争力の低下など我が国を取り巻く環境が厳しさを増す中で、この事業がこれまでの「横並びの大学支援」と異なり、国が大学に向けて日本の未来を託して推進する「最後の一手」だとする強い意志を実感しています。本学も、教育・研究・医療など各分野でさらなる飛躍を遂げるべく、全学を挙げて取り組んでいきます。

この採択により、学生教育にも大きな好影響が期待されます。最先端の研究に触れる機会の拡大、海外のトップ大学との交流や共同研究、博士後期課程学生への支援に加え、企業や自治体、医療機関等との連携による教育プログラムのさらなる充実も視野に入れています。これらは、学生にとって学びの機会や質をこれまで以上に高めるものです。

横浜市立大学は「市立大学」という名称から、地域に根ざした大学というイメージをお持ちの方も多いと思います。しかし、今や本学は、国が描く「世界と伍する研究大学群」の一角を担う存在として、新たなステージに立っています。学生や教職員だけでなく、卒業生や後援会の皆さまの応援が欠かせません。皆さまのご理解とご支援が、学生の未来を切り拓く力になります。引き続き、皆さまのご理解と温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

後援会副会長挨拶

国際商学部長 和田 淳一郎



後期が始まりました。横浜市立大学では交換留学を進めており、特に秋からは多くの交換留学生を受け入れることになります。英語しかできない交換留学生⁽¹⁾受け入れのため、英語で学ぶ専門科目も数多く準備されており、専任教員はもちろん、欧米の大学や国際機関からの招聘教員をも含む非常勤講師による多様な英語での専門科目が講じられております。国際商学部⁽²⁾では少なくとも1科目以上の英語による専門科目の単位修得が義務づけられていることもあり、一学年260名の日本人学生が散るこれらの科目では、欧州からの留学生の比重が高いこともあって、見た目からして国際性豊かな教場が形成されています。

Practical Englishという独特の名称が使用されているために分かりづらいのですが、本学ではTOEIC600が事実上の3年次進級要件⁽³⁾となっております。某有力私学が、令和4年度の同大IRデータに基づき「TOEIC得点600点以上取得者3人に1人」とホームページ上で宣伝しておりますが、本学では就職戦線に出る全学生がTOEIC600を持っている状況となっております。

“3人に1人”と“全学生”の違いには、3倍以上のご評価をいただいてもよいのではないかと考えているところですが、TOEIC600は、国際企業、国際部門で活躍するには全く不十分なものです。横浜市立大学では、2年前期後半(2Q)などで海外語学研修に出やすい機会も準備されておりますが、専門を積み上げていくタイプの学部では、必ずしも推奨されるものではなく、3年次後半から4年次前半にかけての正規交換留学をお勧めしたいところです。

ヨーロッパへの語学検定試験であるIELTS受験への後援会補助などもいただいておりますが、ウィーン大学、ベネチア大学、ゲーテ大学(経済経営学部)を始めとするヨーロッパの有力大学が数多く準備されているのにも関わらず、交換留学は若干入超気味です。2Qの海外語学研修などと違い、3年次後半から4年次前半への正規交換留学は就活においても留学生扱いになり、面接はzoom、本学側で準備された同時履修制度により4年での卒業も可能です。しっかりと専門基礎も築いた上で行われる正規の交換留学は、単なる語学研修を超えたものがありますので、各ご家庭で検討いただけましたら幸いです。

(1) 令和7年度後期からの受け入れ交換留学生数

	授業で使われる言語				小計		計
	日本語		英語				
	一年	半期	一年	半期	一年	半期	
教養	4	1	3	14	7	15	22
商	2	4	6	13	8	17	25
理				2		2	2
DS		1		1		2	2
計	6	6	9	30	15	36	51

(2) 国際商学部、理学部、医学部の3学部は、文部科学省「全国学生調査(第4回試行実施)」ポジティブリストの「主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)」でベスト10にランキングしています。
https://www.mext.go.jp/content/20250930-koutou02-000001987_2.pdf

(3) IELTS5.0やTOEFL-ITP500などで進級要件を確保する学生もいますが、ほとんどの学生は企業が評価基準に使うTOEICを受験します。



J-PEAKS 採択と本学の 10 年後ビジョン

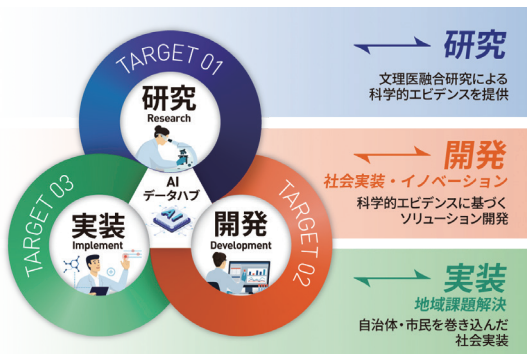
本学は 2025 年 1 月、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。本事業は、①強みを持つ特定の学術領域の卓越性を発展させる機能、②地球規模の課題解決や社会変革に繋がるイノベーションを創出する機能、③地域産業の生産性向上や雇用創出を牽引し、地方自治体、産業界、金融業界等との協働を通じ、研究力を活かして地域課題解決をリードする機能を持つ大学を支援し、効果的な大学間連携を図ることで、研究大学群として発展させていくものです。

全国で 25 大学のみが採択され、事業期間は 5 年、最大 55 億円の支援が行われます。

本学は 10 年後の大学ビジョンとして、「共創を加速する『よこはまデータサイクル』を構築し、未来社会における高いヘルスウェルビーイングを実現する」ことを掲げています。この「よこはまデータサイクル」とは、横浜の多彩な医療・市民生活データ等を活用し、本学と横浜市が一体となって、未来社会をより良くする循環を生み出す取り組みを意味しており、J-PEAKS では、データを活用して将来の課題を予測、最適な解決策を創出・選択する手法を構築し、国内

外に実装することで高いヘルスウェルビーイングの達成に貢献することを目指します。

このビジョン達成に向け、本学では、①卓越研究（ヘルスウェルビーイング分野）を戦略的に加速させるための組織強化、②大学の研究成果と社会アジェンダ解決をつなぐイノベーションの創出、③産学官民連携による知識集約型社会の形成の 3 つのターゲットを設定しました。各ターゲットには 8 つのアクションプランを紐付け、さらに 4 つのテーマを追加し、全部で 12 のワーキングを設置しました。今後は学長のリーダーシップの下、全学を挙げた改革を推進します。



YCU × J-PEAKS WEB サイト
<https://www.yokohama-cu.ac.jp/j-peaks/index.html>



大学生の新しい“居場所”をつくる——「よっちカフェ」をオープン！

新入生は、学習内容が変わるだけでなく、新たな人間関係を築いたり、部活やアルバイトなど複数のコミュニティを行き来するなど、大きな環境変化を経験します。とくに本学では一人暮らしを始める学生が多く、自分で生活を成り立たせていかなくてはなりません。さらに、学年が上がるにつれて、学業や進路、人生設計など、悩みも刻々と変化していきます。



そうした中で、構内にほっと一息つける場所、気軽に不安や悩みを話せる場があれば——そんな思いから、大学生の居場所カフェ「よっちカフェ」を金沢八景キャンパスにオープンしました。これは本学が採択された文部科学省の COI-NEXT 拠点「若者の生きづらさを解消し高いウェルビーイングを実現する共創拠点」（プロジェクトリーダー：宮崎 智之教授）の研究活動の一環で、研究開発課題チーム 6（チームリーダー：横浜市立大学国際商学部 原 広司准教授）の主催により、学生が主体的に運営し、毎回約 70 名が訪れています。

よっちカフェでは、ジュースやコーヒーを無償で提供しながら、学生の不安や悩みの声に耳を傾けています。「部活で仲間のメンタル不調に気づいてもどう対応すべきかわからない」「サークルに入らないと授業やゼミの情報が得にくい」など、学生生活のリアルな課題も見えてきました。

学生とともに試行錯誤を重ねながら、心地よい居場所づくりを目指しています。今後は、卒業生の皆さまとの交流の場としても広がっていければと考えています。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2025/20250530yocchicafe.html>



企画・運営を行った学生スタッフのコメントをホームページに掲載しています。

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/back-number/ycu-topics2025.html#comment2>

よっちカフェ継続 OPEN！（毎週月曜日 12：00～19：00 全学年対象）



学術情報センター

金沢八景キャンパス学術情報センターでは、学修・研究に関わるさまざまな情報やサービスを提供し、学生の多様な学修スタイルをサポートしています。

<所蔵資料>

図書：約 72 万冊

雑誌：約 1 万 4 千タイトル

電子ジャーナル：約 1 万 7 千タイトル

昨年度に引き続き、有志の学生による「学生選書」を行い、学生の希望をより反映させた図書をご寄贈いただきました。

<利用時間>

通常開館	平日（授業期）	9:00 ～ 21:00
土日開館	土曜・日曜（日は試験期のみ）	9:00 ～ 17:00
短縮開館	休業中の平日など	9:00 ～ 17:00
休館日	祝日、年末年始ほか	-



学術情報センターでは、学生の学修・研究を対面とオンラインの両面からサポートしています。資料相談（レファレンス）は、対面の窓口のほか、LINE で気軽に利用できる環境を提供しています。また、資料は本棚に並ぶ紙の資料のほか電子ブックも整備し、場所を選ばない学修・研究支援を行っています。

◇後援会からの図書寄贈：後援会から毎年多くのご支援をいただき、学修・研究環境を一層充実させています。語学学修などに役立つ資料は電子ブックで整備することができたほか、ご支援いただいた学生の日常生活を豊かにする小説や実用書なども多くが頻繁に利用されており、学生生活に大いに役立っています。

◇学術情報センター（図書館）募金：学術資料の充実によって、最先端の研究と将来性に満ちた学生の育成を実現し、継続的に社会へと還元できるよう、皆さま方からご支援を募っております。おかげさまで、2022年6月から2025年9月末までの間に、約2,592万円のご寄附が寄せられました。ご寄附いただいた皆さま方に厚く御礼申し上げます。



ゼミ活動

データサイエンス学部 戸田ゼミ 学生一同

2025 年 8 月 30 日・31 日に、筑波大学山本研究室と横浜市立大学戸田研究室による合同合宿を、静岡県伊東市のルネッサ赤沢で開催しました。本合宿は「人の行動」をテーマに、行動モデリング・情報検索・データマイニングなど多様な視点から研究交流を深めることを目的としています。両研究室から学生 20 名、OB 2 名、教員 2 名が参加し、学年や所属の枠を越えて活発な議論が行われました。

1 日目はライトニングトーク形式の研究発表から始まり、行動データ解析、推薦システム、生成 AI、マルチエージェント学習など、各研究室が取り組む最先端の研究テーマが紹介されました。発表後には、参加者をグループに分けたワークショップを実施し、「LLM（大規模言語モデル）クイズ」「フェルミ推定」「人流データ都市当て」などの体験型プログラムを通じて、論理的思考力やデータリテラシーを養いました。夜は BBQ での夕食に続き、自由討論の「ナイトセッション」で研究やキャリアについて語り合い、研究室間の親睦を深めるとともに、データ分析を支える基盤技術についても理解を深めました。

2 日目の研究ディスカッションでは、発表内容の一部をさらに掘り下げ、研究の方向性や今後の展開について意見交換を行いました。異なる環境で関連分野に取り組む学生同士が相互に刺激を受け、新たな視点を得る貴重な機会となりました。また、OBの方々からは自身の研究経験をもとに助言をいただき、世代を超えた活発な交流も生まれました。

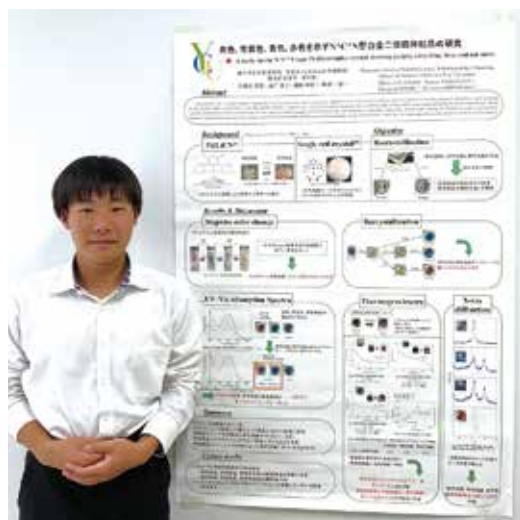
本合宿を通じて、参加者は知識と人脈の両面で多くの学びを得ることができました。後援会の皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。





国内学会発表

生命ナノシステム科学研究科 物質システム科学専攻 博士前期課程 2年 藤谷 景星



2024年9月18日から20日に岐阜大学で開催された錯体化学会第74回討論会に参加しました。金属錯体はクロロフィルのように強く発色するものが多く、その中で私は白金二価錯体の色について研究をしています。私が興味を持っている白金二価錯体 $[Pt(L)(CN)]$ ($HL = 2,4\text{-di}(5\text{-methyl-2-pyridyl})\text{-1,5-difluorobenzene}$) は、紫色結晶として得られますが、クロロホルム蒸気に曝すと、紫色から青色、赤色の順に変化する性質があります。しかし、どのようにクロロホルム分子が結晶に色変化をもたらしているかは未解明であり、紫色・青色固体の結晶構造も不明のまま残されています。そこで私は、結晶構造決定を行うために紫色固体と青色固体の結晶化に取り組みました。その結果、紫色結晶と青色結晶の作り分け、さらには青紫色結晶を新たに作成することに成功して「紫色、青紫色、

青色、赤色を示す N^C^N 型白金二価錯体結晶の研究」というタイトルでポスター発表をしました。

本学会にはさまざまな錯体について研究している方々が参加します。本学会への参加は、自身の研究についても新たな発見につながる助言をいただける貴重な機会となりました。そのおかげで、自身の研究をより深く見つめることができ、修論作成の一助になっています。

私はこの研究を通して、金属錯体結晶の発色機構を解明し、錯体化学の分野の発展に貢献したいと考えています。今回、後援会の皆さまには、学会に参加するという貴重な機会をくださったことに深く感謝申し上げます。今後とも研究に尽力する学生たちへの温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

産学チャレンジプログラム

国際商学部 3年 松田 陽葉里

こんにちは。私たちは現在、横浜市立大学柴田ゼミの5人チームで「産学チャレンジプログラム」というビジネスコンテストに参加しています。今年5月から活動を開始し、9月末に論文レポートを提出、そして10月末の企業様向けプレゼンに向けて日々準備を進めています。

ゼミでは主にマーケティングや消費者行動を学んでおり、その学びを応用・実践する場として本プログラムに参加しています。

市場調査や企業分析を行い、企業の強みや課題、消費者のニーズを抽出し、そのうえで、学生ならではの新たな視点から独創的な施策を提案しています。具体的には、各企業との直接的なやり取りを通じてヒアリングやフィールドワークを実施したり、一般消費者や法人企業へのインタビューを行ったりしています。得られた調査結果や分析内容をもとにマーケティング理論を適用し、チームで意見を出し合いながら最良の施策を模索。妥協せず議論を重ね、完成度を高めています。

また、定期的にゼミ内での発表やOB・OGの方々、先生方からのフィードバックをいただき、客観的な視点を取り入れています。その過程で毎日新たな発見や学びがあり、普通では得られない貴重な経験を重ねています。

これまでの大学での学びや経験、そして5人それぞれの強みと個性を最大限に活かし、企業様にとって有意義なプレゼンテーションとなるよう全力で取り組んでまいります。



グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、本学では海外でのさまざまな学びや実践の場を提供しています。後援会からのご支援を受け、海外でさまざまな体験を重ね、多くのことを学んだ学生たちの体験談をお届けします。

令和7年度も学生からの多種多様なニーズに応えるべく、ポーツマス大学（イギリス）、ローワン大学（アメリカ）などの大学と交換留学を中心に新たなプログラムを増やしました。

（ご参考）https://www.yokohama-cu.ac.jp/ytog/global/overseas_study/ycuprograms.html



交換留学プログラム

アメリカス・プエブラ大学 メキシコ 2024年8月～2025年5月 国際教養学部 3年 飯田 伶

このたび、横浜市立大学後援会の皆さまからの温かいご支援を賜り、2024年8月から2025年5月までの約10カ月間、メキシコのアメリカス・プエブラ大学にて交換留学に行く貴重な機会をいただきました。心より厚く御礼申し上げます。

留学当初は、文化や言語の違いに戸惑うこともありましたが、ラテンの陽気な人々に囲まれ、日々新しい発見の連続でした。学業面では自身の知見を広げるため、公共政策や国際紛争、アートといった領域横断的な授業を積極的に履修しました。メキシコの学生と共に少人数クラスで議論を交わし、教授から丁寧にフィードバックをいただく中で、多様な価値観や論理に触れることができました。

また、授業の一環で、首都メキシコシティで開催されたAIに関するシンポジウムに参加した経験はとくに印象に残っており、教育現場におけるAI技術の活用という最先端のテーマについて、世界的な企業の専門家たちから直接話を聞くことができ、大きな知的刺激を受けました。

一方、生活面では、大学のイベントでメキシコの学生に書道を教えたり、現地の伝統工芸であるタラベラ焼きの工房に訪れたり、能動的に文化交流に参加しました。

この留学で得た学びと経験は、私の人生にとってかけがえのない財産です。この貴重な機会を与えてくださった後援会の皆さまに改めて深く感謝し、今後はこの経験を糧とし、より一層勉学に励んでまいります。



メキシコシティでのAIシンポジウム後、プエブラ大学への帰路の一枚

夏季短期語学研修

ダブリンシティユニバーシティ アイルランド 2025年8月～9月 データサイエンス学部 2年 岩淵 蒼太



授業最終日にクラスメートとの集合写真

私は8月から9月にかけての1カ月間、夏季短期語学研修としてアイルランドのダブリンシティユニバーシティに留学しました。もともと高校時代から短期間でも海外留学を経験したいと考えていましたが、当時は新型コロナウイルスの影響で海外研修が実施されませんでした。そのため、大学では必ず留学したいという思いから、このプログラムへの参加を決意しました。

現地では週5日、1日4時間の授業を受けました。授業では日常生活に関するトピックを取り上げながら、文法や語彙、発音などを学びました。少人数でのグループディスカッションやミニゲームによる理解度チェックなど、日本の授業に比べて実践的な活動が多かったことが印象的でした。放課後や週末には自由時間も多く、大学主催のアクティビティに参加したり、クラスメートと昼食を共にしたり、観光地や人気スポットを訪れたりしました。また、ホームステイでの滞在だったため、ホストファミリーとの英語での会話を通じて現地の文化にも触れることができ、異文化理解の面でも視野を広げる貴重な機会となりました。

今回の研修を通して、実践的な学びの重要性を改めて実感しました。今後は使える英語を意識しながら、さらに英語力の向上に努めていきたいと考えています。

後援会の皆さまのご支援のおかげで貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。



第2フォーター (2Q) プログラム

ビクトリア大学 カナダ 2025年6月末～7月末

国際商学部 2年 君島 春乃

私は6月末に日本を出発して、そこから7月末までの4週間、カナダのビクトリア大学での2Q留学プログラムに参加しました。平日、週5日の午前中に約4時間の授業がありました。授業はコミュニケーションをとることを中心とした能動的な授業が多く、実りが多かったです。授業の前半で軽く文法事項についての説明があった後、クラスメイトや先生とコミュニケーションをとり、習ったことを即座に実践し、理解を深めていきました。授業中での交流を通じて、英語の能力を伸ばすことができた実感しています。午後にはアシスタントの方々がさまざまなプログラムを用意してくれました。ビクトリアを観光したり、グループワークを行ったり、学校探検をしたりしました。この交流で



修了証を受け取ったクラスメイトとの写真



ビクトリア観光中の州議事堂前での集合写真

クラスメイト以外のたくさんの留学生と関わることができました。私が今回の留学で学んだことは自分から行動することの大切さです。自分から話しかけて、たくさんコミュニケーションをとることでたくさんの友人を作ることができ、英語の能力も伸ばすことができました。そして留学先で積極的に行動することでさまざまな貴重な体験を経験することができました。この学びを今後にも活かしていきたいと思います。今回留学に行くにあたり、支援をしていただきありがとうございました。後援会の皆さまに心から感謝申し上げます。

海外フィールドワーク

ドイツ、ポーランド 2025年3月1日～3月10日

国際教養学部 2年 及川 優莉奈



MDSMのボランティアガイド、ハンナさんと

など、多数の博物館、歴史的遺産を訪問し、現地のガイドと意見を交わしました。それぞれの施設が伝えたい歴史を印象的、感覚的な面から学び、次世代の人間がこの歴史を忘れないよう発信方法が工夫されていることに気づきました。あるメンバーは、実際にアウシュビッツ収容所を訪れた際の感想をこのように述べています。

「…実際に訪れて、私が想像していたものよりも、アウシュビッツは美しい場所でした。…この建物が何のために作られ、誰の手によって、誰の指示で作られ、どれだけの人々が苦しみながら亡くなっていったのか、それを知らなければ、伝える人がいなければ、どんな場所もいつかただの風景になってしまいます。時間と共に風景は変わっていき、どんな恐ろしいことが起きた場所も時間の経過には抗えないからこそ、その歴史を伝える人の存在、伝えようとする努力が必要なのだと思います。」

この経験から、私たちは、歴史との向き合い方を考えることで現在の社会を新たな観点で見ることができたと思います。最後に、後援会の皆さまに過分なる助成金を賜り、厚く御礼申し上げます。結びとさせていただきます。

※MDSM：アウシュビッツ国際青年交流センター



青空とアウシュビッツ・ビルケナウ収容所

第75回浜大祭



のコラボによるスペシャルトークショーをはじめ、活気ある野外ステージや約60の飲食・展示出展が構内にひろがり、来場者を楽しませました。さらに、2年ぶりに花火企画も復活し、夜空に咲いた大輪の光に多くの歓声が上がりました。

後援会の皆さまからの多大なるご支援と学生や地域の方々をはじめ、多くの方のご協力のもとで開催された第75回浜大祭は、目標の1万人を超える来場者を迎えることができました。ご来場いただいた方々も含めたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。来年度の浜大祭もどうぞご期待ください。

浜大祭実行委員会 委員長 駒走 旬星

第75回浜大祭は、テーマ「solaris」のもと、11月1日(土)・2日(日)に金沢八景キャンパスで開催されました。「solaris」(ラテン語で「太陽」の意)には、“笑顔と情熱が集まり、あたたかなエネルギーで心を照らす浜大祭にしたい”という想いが込められています。その名のとおり、学生一人ひとりの個性と情熱が光り、キャンパス全体が明るくにぎわいにあふれた2日間となりました。

今年は、本学が舞台モデルとなった人気アニメと



第44回 東京都立大学・横浜市立大学総合定期戦 第74回 関東甲信越大学体育大会

運動部連合会は、各運動部から1名ずつ委員を選出して構成され、横浜市立大学の全35の運動部を統括する組織です。今年度も、都立大戦や関東甲信越大学体育大会(関甲信)をはじめ多くの行事に参加いたしました。都立大戦では、どの競技においても白熱した試合が繰り広げられ、結果は引き分けという形になりました。普段はなかなか見ることのできない他部の試合を観戦することで、各部員にとって良い刺激となり、競技の枠を超えた交流を深める貴重な機会となりました。また、関東甲信越大学体育大会の前には壮行式を執り行い、橘副学長をはじめ多くの皆さまにご出席いただき、激励の言葉をいただきました。そのおかげで、運動部全体の団結と士気がさらに高まり、大会へと臨む力となりました。来年度は本学が関甲信の主管校を務める予定であり、運動部連合会役員一同、力を合わせて大会を成功へ

運動部連合会委員長 渡邊 功太郎



導いてまいります。このような活動が円滑に行えるのは、ひとえに後援会の皆さまのご支援のおかげです。心より感謝申し上げますとともに、今後とも横浜市立大学運動部および運動部連合会へのご支援をよろしくお願いいたします。



クラブ活動

■ヨット部

部長 奥平 夏生

ヨットは、海を舞台に風、波、潮を読み、他の船との駆け引きをしながらゴールを目指す「洋上のチェス」とも呼ばれるスポーツです。横浜市立大学体育会ヨット部に所属する部員は、ほとんどが大学からヨットを始めており、先輩やOBOGの方々のご指導をいただきながら「全日本出場」という目標に向かって日々練習に励んでいます。

7月に行われた、2025 Snipe Women's World Championship(スナイプ女子世界選手権)では、世界中の女子セーラーが江ノ島に集まり、4日間にかけてレースが行われました。



出場に際しては、予選などはありませんでしたが、オリンピック出場経験のある選手や、強豪校の大学生セーラーも多く出場しており、苦手としていたコンディションでの成長を感じつつも、新しい課題を覚え、悔しくも大きな学びを得た大会となりました。

私たちが、ヨットに本気で打ち込めているのは、後援会の皆さまの多大なご支援のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。大会結果で感動をお届けできるよう邁進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



■演劇研究部

部長 明治 花鈴



私たち演劇研究部は、劇団海星館という団体名で30年以上活動が続けています。毎年、新歓公演、新入部員を中心に行う新人公演、秋公演、冬公演の計4回の発表を行っております。今年度は6人の新入部員を迎え、計16人で日々稽古に取り組んでおります。また、昨年度は外部の脚本家書いた台本を使用していましたが、今年度は当部の部員が一から執筆したり、一人劇を計画したりと新たな試みも行っております。

今後の目標としては、まず更なる観客の増加を目指しています。その一環として、地域の方が多く訪れる浜大祭に数年ぶりに出展し、11月中旬に開催予定の秋公演の宣伝を行います。また、部員が増えたため人手がいる本格的な大道具製作にも挑戦したいと考えております。

演劇は役者だけではなく、多くの照明・音響機材を必要とします。他にも大道具製作のための木材やペンキ、衣装の購入など一度の公演で膨大な費用が動く活動です。我々が快適に稽古に励むことができるのは、後援会の皆さまによる多大なご支援のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。今後とも部員一丸となって精進してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。



◆海外遠征（ウィンドサーフィン部）

部長 山崎 滉太

ウィンドサーフィンは、風の力を使って海を滑走するスポーツです。大会では100を超える艇が一斉にスタートし、順位を競い合います。道具を扱う技術はもちろん、求めている風がどこに吹いているか、他の艇に対してどんな位置をとるのかといった判断力など、さまざまな要素が絡む奥が深いスポーツです。そんな競技ですが、レースで勝つ楽しさや海を滑走する気持ちよさに魅了され、部員全員が非常に楽しみながら日々練習しています。

今年8月にイギリスで開催された世界選手権では、本学4年の青木優斗が出場し、見事世界第4位という素晴らしい成績を収めました。遠征にあたっては、後援会の皆さまより多大なご支援を賜りました。ウィンドサーフィンは道具や遠征費の負担が大きい競技ですが、皆さまの温かいご支援のおかげで、こうした貴重な経験を積むことができております。改めて、心より感謝申し上げます。

今後もより一層の努力を重ね、皆さまに良いご報告ができるよう精進してまいります。今後とも変わらぬご支援、ご声援のほど、よろしくお願いいたします。



キャリア・就職支援の主な取り組み

令和7年度は、4月の就職ガイダンスや業界研究セミナーを皮切りに、学部1・2年生を対象としたキャリアセミナー「将来やりたいことを見つけて、学校生活を充実させよう!」や、内定者座談会など、学生が早期からキャリア観を育む機会を提供しています。

11月には「市大生のための企業研究&インターンシップフェア」を金沢八景キャンパス・YCUスクエアにて2日間、オンラインで1日開催しました。また、2026年2月には「市大生のための合同企業説明会」を金沢八景キャンパス・総合体育館にて開催します。市大生の採用に積極的な約120社が参加する予定です。キャリア支援センターでは、年間を通じてインターンシップフェアや企業説明会などの学生と企業の出会いの機会を提供しています。



内定者パネルディスカッション&座談会開催—先輩の経験が後輩の力に—

6月には、金沢八景キャンパスにて「内定者パネルディスカッション&座談会」を開催しました。就職活動を終えた学部4年生6名が登壇したパネルディスカッションでは、業界選びの視点や苦労を乗り越えた工夫などリアルな体験談が語られました。また、後半の座談会では、内定者1名につき1グループを設け、後輩学生が各グループを順に訪問する機会を設けました。先輩との対話を通じて、就職活動の疑問や不安を率直に相談する姿が見られ、先輩の経験が後輩の力となる、有意義な時間となりました。

後援会のご支援により、参加学生には飲料が提供され、リラックスした雰囲気の中で先輩との交流を深めることができました。



内定者パネルディスカッション

海外キャリア教育プログラム体験談 2025年6月28日～7月20日

実習先：SBTA&SELA (オーストラリア・シドニー)

国際教養学部 2年 内海 佳鈴



上司のジュリアナさんと



オフィスの最寄り駅

私は、国際的な環境で働くことを視野に自分のキャリアを考えるため、また他の人とは一味違う海外経験をしたい、という思いからシドニーのプログラムに挑戦しました。そして、VETスクール(専門学校・職業教育訓練校)のマーケティング部署に受け入れていただきました。

主な業務内容としては、生徒の管理と資料制作、留学生が多い学校だったので留学エージェントのリスト作成や日本人留学希望者をターゲットにした学校紹介の動画作成も行いました。教育機関としてのマーケティングの仕方や学生ビザ申請の事務作業なども教えていただきました。

周りに日本語を話せる人が一人もいない、またさまざまなバックグラウンドを持つ人が集まっているという多国籍な環境で、英語にたくさん触れながら働くことができました。言語だけでなく、オーストラリアの働き方や教育システム、留学業界の仕組みや最新動向などについても知ることができ、多方面において成長を実感できた3週間でした。上司の方々にも温かく迎え入れていただき、お茶を飲みながら休憩をご一緒する場面もあり、忙しくも楽しく充実した時間を過ごすことができました。

このような貴重な経験を積めたのも、後援会の皆さまにご支援をいただけたからです。心からお礼申し上げます。この経験を糧に、国際的に活躍できる人を目指して日々励んでいきたいと思います。

キャリア支援事業の詳細

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/assist/career/index.html>



YCU Best Student Award・YCU Student Award 表彰式

令和6年度は応募総数20件の中から学内での厳正な審査の結果、分野別（学術研究分野および課外活動・社会活動分野）にYCU Best Student Awardには2件、YCU Student Awardには6件が選出され、2025年3月13日に金沢八景キャンパス市大交流プラザ（いちょうの館多目的ホール）にて表彰式を執り行いました。後援会からは、受賞者に対して副賞をお渡ししています。

伊藤雅俊奨学生・成績優秀者特待生表彰式

前年度の成績をもとに、学業・人物ともに優秀な学部学生を表彰する、伊藤雅俊奨学生（※1）・成績優秀者特待生（※2）の令和7年度表彰式が2025年9月18日に金沢八景キャンパス YCU スクエア Y204 で執り行われ、選出された伊藤雅俊奨学生5名と成績優秀者特待生52名の受賞者へ表彰状と目録の授与を行いました。当日は、ご家族や指導教員など70名を超える方々が参列し、その栄誉を讃えました。後援会からは式典の生花をお贈りしています。

（※1）伊藤雅俊奨学生制度：故伊藤雅俊氏（本学卒業生 / ㈱セブン&アイ・ホールディングス名誉会長）より寄贈された株式に係る配当金を原資に創設した制度。寄附者の意向に沿い、国際商学部の特に出発する優秀な学生に奨学金を給付しています。（国際商学部2年次以上の各学年が対象）

（※2）学業への一層の努力を奨励するとともに、学生の学修意欲の向上を期待して創設した制度（各学部学科の2年次以上の各学年が対象）

卒業生送別祝賀会



令和6年度祝賀会の様子

令和6年度は、学部712名、金沢八景キャンパス大学院125名がそれぞれ卒業・修了しました。例年、金沢八景キャンパス体育館での卒業式典後、卒業生は、各学部・専攻に分かれて、教員の進行により学位記授与式を行っております。学位記授与式に続いて、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止していた卒業生送別祝賀会を6年ぶりに実施しました。後援会の助成により、学内の5つの会場においてたいへん賑やかに開催されました。

上記学生生活サポート（福利厚生事業）の詳細

<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/assist/employee-welfare/index.html>



令和7年度後援会主催保護者説明会の開催報告について

保護者説明会は、在学生の生活や大学の取り組みを紹介することで、学生が安心して学べる大学であるという理解や信頼を深めることを目的に、平成24年度から開催しています。令和7年度は、昨年度に引き続き、参加者が対面とオンラインを選択できるハイブリッド形式で開催し、多くの方にご参加いただきました。

今年度の保護者説明会も、事前に保護者の皆さまからお寄せいただいた質問と、対面およびオンライン参加者からの質疑に回答しました。

実施後のアンケートでは、「説明会全体の満足度」（「大変満足」または「満足」と回答）が90.0%と、高い評価をいただきました。当日はご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。

【説明会の概要や、配布資料の一部、詳細なアンケート結果は、大学ホームページに掲載していますので、ご覧ください】

https://www.yokohama-cu.ac.jp/news/2025/setumeikai_2025.html



令和7年度定時総会（書面決議）の結果について

令和7年度横浜市立大学後援会定時総会は、会員の皆さまのご支援、ご協力により無事に終えることができました。書面決議結果（全議案について承認）および今回の議決に際し、会員の皆さまからいただきましたご意見への回答を含めた今後の取り組みにつきまして、ホームページに掲載のNEWS LETTER 2025 一定時総会（書面決議）報告—（PDF）でご報告させていただいておりますのでご覧ください。



横浜市立大学後援会会則

(名称)

第1条 本会は、横浜市立大学後援会と称する。

(事務局)

第2条 本会は、事務局を横浜市立大学金沢八景キャンパス内に置く。

(目的)

第3条 本会は、横浜市立大学の教育研究事業及び学生生活の支援等を行うことを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条に定める目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への支援
- (2) 学生の学業、課外活動及び福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員)

第5条 本会は、次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生（医学部2年次以上及び医学研究科を除く。）の保護者又は学生本人（以下「1号会員」という。）
- (2) 横浜市立大学の教職員及びその退職者で本会の事業を支援する者（以下「2号会員」という。）
- (3) その他本会の事業を賛助する者（以下「3号会員」という。）

(役員の設置)

第6条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 15名以上20名以内
- (2) 監事 2名以内

2 理事のうち1名を会長、1名を副会長とする。

3 理事のうち2名を業務執行理事とする。

(役職者の選出)

第7条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、業務執行理事は、理事の互選により選出する。

(役員任期)

第8条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。

(役員任務)

第9条 役員任務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- (3) 業務執行理事は、本会の業務を処理する。
- (4) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。

(顧問)

第10条 本会は、横浜市立大学との連携を密にするため、顧問を若干名置くことができる。

2 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。

3 顧問は、会長の諮問に応じるとともに、会長の求めにより理事会に出席して意見を述べることができる。

(職員)

第11条 本会の事務を処理するために、事務局に職員を置く。

2 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第12条 本会の会議は、総会及び理事会とする。

2 総会及び理事会の議長は、会長がこれにあたる。

(総会の決議事項)

第13条 総会は、年1回開催し、次の事項について決議する。

- (1) 役員選任

(2) 事業報告及び決算の承認

(3) 会則の改正

(4) その他本会の運営に関し必要と認められる事項

2 会長は、必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。

3 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(理事会)

第14条 理事会は、理事全員をもって構成する。

2 監事は、理事会に出席し、意見を述べる。

(理事会の決議事項)

第15条 理事会は、事業計画、予算、決算及びその他本会の運営に必要な事項について決議する。

2 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。

ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

3 理事会の議事は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄附金及びその他の収入をもってこれにあてる。

(会費)

第17条 本会の1号会員は、入学時に会費を納入することとし、既納の会費は返還しない。

2 会費の額は、次のとおりとする。

(1) 学部においては学生1名につき、50,000円（ただし、医学部1年次生については15,000円）

(2) 大学院博士前期課程及び博士後期課程においては院生1名につき30,000円（ただし、博士前期課程から博士後期課程に進学した者にあつては20,000円）

3 2号会員及び3号会員については、会費の納入を要せず、随時、本会の事業を支援、賛助するための寄附に努めるものとする。

(会計年度)

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(会則の改正)

第19条 この会則の改正は、総会で行う。

2 改正を議決するには、出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

附則

本会則は、平成17年4月1日から施行する。

2 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

本会則は、平成22年6月26日から施行する。

附則

本会則は、平成26年7月5日から施行する。

附則

本会則は、平成29年7月1日から施行する。

附則

本会則は、令和元年7月6日から施行する。

附則

本会則は、令和3年8月10日から施行する。

横浜市立大学後援会

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内
TEL : 045-787-2397 e-mail : kouenkai@yokohama-cu.ac.jp
<https://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>



本誌は当会ホームページよりダウンロードできます。